

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [船橋市立船橋高等学校] 担当教諭名 [山田 真梨子] (美術部 13名)
 相手国・地域 [ラトビア]
 海外学校名 [Talsi State Gymnasium] 担当教諭名 [Ieva Sebre]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動	アートマイルプロジェクト	75

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Filling out the pieces of the world together ~Enriching the world with the sea
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	「世界のカケラをみんなで埋めていく～海で世界を豊かに～」を訴える絵を制作しました。未来を担う子供たちがSDGsを学ぶ機会が多い今、日本人としてだけではなく、学生という立場で世界中と協力したいというメッセージを作品に込めました。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 海外の学校の生徒と交流すること自体が初めての生徒が多く、日本語ではない伝え方でこちらの思いをどのように伝えれば良いかを考え、工夫する有意義な機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校からの返事がなかなか来なかったため、活動を進展させることが難しく一方通行になっていた。 こちらが発した質問に対しての答えが返ってこなかったため、協議という流れにならなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> フォーラムで交流することで、相手国の文化や環境に興味を持つようになった。 日本以外の国の環境問題への関心を高めるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手校の反応を得るために、生徒は動画を作成するなど一生懸命活動を行っており、私自身も相手校に対して積極的にコミュニケーションを取ろうという意識に変化していった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふなばし環境フェア」に参加し、ごみ拾いのボランティアをした。また船橋市の環境に対する活動や問題を学んだ。 ・日本(三番瀬)とラトビアの環境の現状について調べた。 ・ブレインストーミングを通して海の環境問題について意見を出し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの一番身近な地域である船橋市について知ることで、今自分たちにできることは何なのかという視点を持つことができた。 ・相手校に環境について質問し、調べることで知識が増えやりがいにつながった。 ・テーマが大きすぎたため、情報をまとめることに苦戦していた。 	部活動 20
共有 相手と意見交換	8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに調べた内容をもとに各自レポートを作成し発表しあった。 ・レポートの内容を踏まえて動画を作成し相手校に送った。 ・拾ったごみでオブジェを作ることを相手校に提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の環境問題に対して、各自様々な考えを持っていることを理解しあうことができた。 ・動画には英語で話す部分を作り、英語の字幕を付けるなどして、コミュニケーションの仕方を工夫するようになった。 ・協議だけではなく、ものづくりを通して相手校と関係を深めたいという提案をすることができた。 	部活動 20
融合 メッセージ作成	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみでオブジェを制作し相手校に写真とメッセージを送った。 ・これまでの学習を振り返り、こちらから相手校にメッセージを提案した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議ができているという感覚が無かったため、これからどのように活動を進めていけば良いのか生徒は迷っている様子だった。 ・メッセージを作成することで、壁画の図案を考えるのに役立ったようだ。 	部活動 10
創造 壁画制作	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・壁画の下絵を作成し、これからの制作を相手校がイメージしやすいように写真と文章で伝えた。 ・部員たちでよく協力し壁画を完成させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが描く部分だけではなく、相手校に描いてもらいたい絵柄についても提案していた。 ・共同制作であるという視点を持ち、相手にもそれを理解してもらいたいという気持ちで取り組んでいた。 	部活動 20
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動の振り返りを行い、部員同士で感想を共有した。 ・部長の生徒が取りまとめを行い、レポートを作成した。英語バージョンも作り相手国に送った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのNo.14について様々なことを考える機会となり、各自達成感を得られたようだった。 ・こちらの発信に対して、相手校の生徒が何を感じ、考え、このプロジェクトに取り組んだのかが分からず、生徒たちは少し残念に感じたようだ。 	部活動 5

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	日本と相手国について調べることで、異文化への理解が深まった。また、相手校に質問することで知識も増えた。
主体的に考え行動する力	4	相手校がなかなか動かない状況の中で、どのようにすれば相手校が反応しやすくなるかを考え、工夫し行動することができた。動画を送ったり、オブジェを制作し写真を送ったりした。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	相手校の意見と自分たちの意見が異なるという場面や、感覚の違いを感じる機会がなかったため、交流が足りていないのだと認識した。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	生徒同士の対話が足りていなかった。こちらは生徒の意見を相手校に伝えていたが、相手校は生徒の意見ではなく教員の思いを伝えてきている印象があった。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	国際問題を絵に表現することは難しかったようだが、メッセージを提案し、下絵の作成をすることで絵のイメージが明確になり、最終的には納得のいく作品を制作することができた。